

PAT-NO: JP02002222046A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002222046 A

TITLE: INPUT PREVENTIVE MOUSE

PUBN-DATE: August 9, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
USUI, AKIHIKO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TOOKADO:KK	N/A

APPL-NO: JP2001020171

APPL-DATE: January 29, 2001

INT-CL (IPC): G06F003/033

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent accidental input by a mouse.

SOLUTION: Frame bodies 3 which are taller than planes of input operation buttons 2a and 2b of the mouse are provided around the buttons 2a and 2b.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-222046

(P2002-222046A)

(43) 公開日 平成14年8月9日(2002.8.9)

(51) Int. Cl.⁷

G 0 6 F 3/033

識別記号

3 4 0

F I

G 0 6 F 3/033

テマコード(参考)

3 4 0 B 5 B 0 8 7

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2001-20171(P2001-20171)

(22) 出願日 平成13年1月29日(2001.1.29)

(71) 出願人 000134224

株式会社トーカド

東京都大田区北千束1-4-6

(72) 発明者 白井 昭彦

東京都大田区北千束1丁目4番6号 株式会社トーカド内

(74) 代理人 100073221

弁理士 花輪 義男

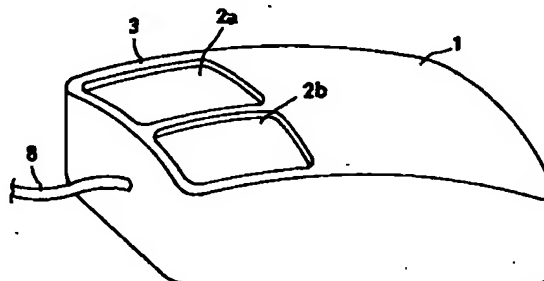
Fターム(参考) 5B087 AB11 BB11

(54) 【発明の名称】 入力防止マウス

(57) 【要約】

【課題】 マウスによる不慮の入力を防止する。

【解決手段】 マウスの入力操作ボタン2a、2bの周囲に入力操作ボタンの面より高い枠体3を設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 コンピュータ等の入力操作するマウスにおいて、入力操作ボタンの周囲に枠体を設けると共に、該枠体の上面を入力操作ボタンの面より高く設定することにより、マウスの面に何らかの物体が接触することによる不慮の入力を防止したことを特徴とする入力防止マウス。

【請求項2】 前記枠体上面の高さを入力操作ボタンの面に対して高低変動自在に構成にしたことを特徴とする請求項1記載の入力防止マウス。

【請求項3】 前記枠体をマウスの前端から後端に向かって回動自在に構成したことを特徴とする請求項1記載の入力防止マウス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、パソコン等の入力を操作するマウスに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来のマウスは、図8に示すようにマウス本体1の上面における先端の左右に配置された入力操作ボタン2a、2bを人差指や中指にて押圧操作することができるように構成されている。なお、図中の符号8はパソコンに接続するコードを示す。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、前記従来のマウスは、その上面に例えば書類など何らかの物体が接触することにより入力操作ボタン2a、2bが押圧され、不慮の入力がなされてしまうという問題があった。

【0004】 よって本発明は、前記従来の問題点を鑑みてなされたものであり、マウスの面に何んらかの物体が接触しても入力を防止することができる入力防止マウスの提供を目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため、本発明の入力防止マウスは、コンピュータ等の入力を操作するマウスにおいて、入力操作ボタンの周囲に枠体を設けると共に、該枠体の上面を入力操作ボタンの面より高く設定することにより、マウスの面に何らかの物体が接触することによる不慮の入力を防止したことを特徴とするものである。

【0006】 請求項2は、前記枠体上面の高さを入力操作ボタンの面に対して高低変動自在に構成にしたことを特徴とする請求項1記載の入力防止マウスである。

【0007】 請求項3は、前記枠体をマウスの前端から後端に向かって回動自在に構成したことを特徴とする請求項1記載の入力防止マウスである。

【0008】 請求項1から3によれば、入力操作ボタンの周囲にマウスの上面に沿って枠体を設けると共に、枠体の上面を操作ボタンの面より高く設定することによ

り、何らかの物体がマウスの上面に接触しても枠体の上面に遮られて操作ボタンの面には接触しにくくなる。

【0009】 また、枠体は上下動自在に構成することにより、枠体を下降させて枠体の面を入力操作ボタンの面より低くした場合は入力操作ボタンの操作が自在となり、また枠体を上昇させて入力操作ボタンの面より高くした場合は何らかの物体がマウスの上面に接触しても枠体の面に遮られて入力操作ボタンの面には接触しにくくなり不慮の入力が防止される。

10 【0010】 更に、枠体を回動自在に構成することにより、枠体をマウスの後方に回動した場合は入力操作ボタンが枠体に無関係となり操作ボタンの押圧操作が自在となり、枠体を入力操作ボタン側に回動した場合は枠体の上面が操作ボタンの面より高いことにより何らかの物体がマウスの上面に接触しても枠体の上面に遮られて入力操作ボタンの面には接触しにくくなり不慮の入力が防止される。

【0011】

20 【発明の実施の形態】（実施の形態1） 図1は実施の形態1に係る、入力操作ボタンの周囲に枠体を設けたマウスの斜視図である。

【0012】 本実施の形態における入力防止マウスは、図1に示すように、マウス本体1の入力操作ボタン2a、2bの周囲に枠体3をマウス本体1と一体的に設け、枠体3の上面を入力操作ボタン2a、2bの面より高く設定したものである。

30 【0013】 本実施の形態によれば、入力操作ボタン2a、2bの面が枠体3の上面より低いことにより何らかの物体がマウス本体1の上面に接触しても枠体3の上面に遮られて入力操作ボタン2a、2bの面には接触しにくいために不慮の入力が防止される。

【0014】（実施の形態2） 図2から図5は本発明の実施の形態2に係り、図2は入力操作ボタンの周囲に上下動可能な枠体を設けたマウスの斜視図、図3は枠体の操作部材、図4及び図5は枠体の作動を示すマウスの端面図である。

40 【0015】 本実施の形態では、前記実施の形態1において枠体をマウス本体と一体的に設けたことに替えて、枠体一部を切り離し、その部分を上下動自在に構成したものである。図2に示すように、入力操作ボタン2a、2bの周囲に沿って形成された枠体3は、マウス本体1の略中央部から先端に至る間が本体1から分離され、枠体の先端側が上下動可能であると共に、自身の弾性力にて常に下方に付勢されていて、常時は枠体の上面が入力操作ボタンの面より低くなっている。

50 【0016】 そして、枠体3先端部分を上下動させるために図3に示す操作部材4を図2に示すようにマウス本体1の前端側壁面における中心対象の2カ所に設けられている。この操作部材4は、回転ボタン5と回転ボタン5の回転中心に連設された係止片6とから成り、図4及

3

4

び図5に示すように回転ボタンを回転することにより係止片6が回転し、係止片6の先端にて枠体3を上下動させる構成となっている。

【0017】本実施の形態によれば、入力操作ボタンの周囲に設けられた枠体3の一部を切り離して上下動自在に構成すると共に、操作部材4をマウスの先端における側壁に枠体3の先端を上下動させる操作部材4を設けたことにより、図4に示すように係止片6が垂直になる方向に操作部材4を回転した場合は係止片6の先端にて枠体3を押し上げて枠体3の上面を操作ボタン2a、2bの面より高くすることができ、また図5に示すように係止片6を倒す方向に操作部材4を回転することにより枠体3は自らの弾性力にて下降して枠体3の上面が入力操作ボタン2a、2bの面より低くなる。これにより枠体の上面を入力操作ボタン2a、2bの面より高くした場合は、何らかの物体がマウスの上面に接触しても枠体の上面に遮られて入力操作ボタン2a、2bの面には接触しにくくなり不慮の入力が防止される。また、枠体の上面を入力操作ボタン2a、2bの面より低くした場合は、入力操作が自在となる。

【0018】(実施の形態3) 図6及び図7は本発明の実施の形態3に係り、図6回動自在に設けた枠体を入力操作ボタン側に回動した斜視図、図7は同枠体をマウスの後方に回動した斜視図である。本実施の形態では、前記実施の形態2における上下動自在な枠体に替えて、入枠体3全体を回動自在に構成したものである。

【0019】入力操作ボタン2a、2bの周囲を囲むように形成した枠体3は、マウス本体1の略中央の側面においてピン7を介して回動自在に設けられており、図6に示すように枠体3の高さは入力操作ボタン2a、2bの面より高く設定されている。この枠体3を図6に示すように入力操作ボタン2a、2b側に回動した場合は、枠体3の上面が入力操作ボタン2a、2bの面より高いことにより、何らかの物体がマウス本体1の上面に接触しても枠体3に上面に遮られて入力操作ボタン2a、2bの面には接触しにくくなり不慮の入力を防止することが可能となる。また、図7に示すように枠体3をマウス本体1の後方に回動した場合は、入力操作ボタン2a、2bが枠体3に無関係となり入力操作が自在となる。

【0020】本実施の形態によれば、前記実施の形態2

と同様な作用効果が得られる。

【0021】

【発明の効果】本発明によれば、入力操作ボタンの周囲に枠体を設け、枠体の上面を入力操作ボタンの面より高く設定することにより、マウスの上面に何らかの物体が接触しても枠体の上面に遮られて入力操作ボタンには接触しにくくなる。これにより不慮の入力が防止される。

【0022】また、枠体を上下動可能に構成することにより、入力操作をする時は枠体の上面を入力操作ボタンの面より低くして入力操作を容易にし、入力を防止する時は枠体の上面を入力操作ボタンの面より高くすることが可能となる。

【0023】あるいは枠体全体をマウスの中央部を中心に回動自在に構成することにより、入力操作をするときは枠体をマウスの後方回動して入力操作を自在にし、入力を防止する時は枠体をマウスの先端側回動して、枠体の上面を入力操作ボタンの面より高くしてマウスの上面に何らかの物体が接触しても入力操作ボタンには接触しにくくすることが可能となる。

20 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態1に係る入力操作ボタンの周囲に枠体を設けたマウスの斜視図。

【図2】本発明の実施の形態2に係る入力操作ボタンの周囲に上下動可能な枠体を設けたマウスの斜視図。

【図3】枠体の操作部材を示す斜視図。

【図4】枠体の作動を示すマウスの端面図。

【図5】枠体の作動を示すマウスの端面図。

【図6】実施の形態3に係る枠体全体を回動自在に設けたマウスの斜視図。

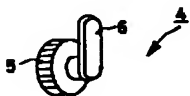
30 【図7】枠体全体を回動自在に設けたマウスの斜視図。

【図8】従来のマウスの斜視図。

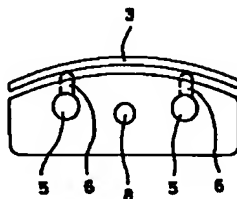
【符号の説明】

- 1 マウス本体
- 2 入力操作ボタン
- 3 枠体
- 4 操作部材
- 5 回転ボタン
- 6 係止片
- 7 ピン
- 40 8 コード

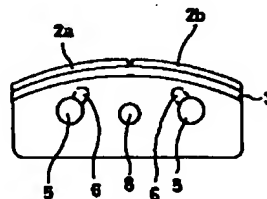
【図3】



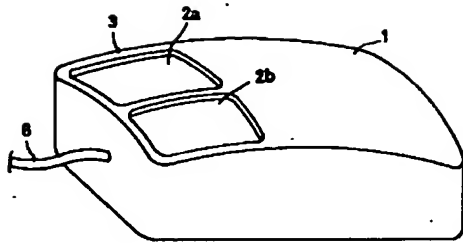
【図4】



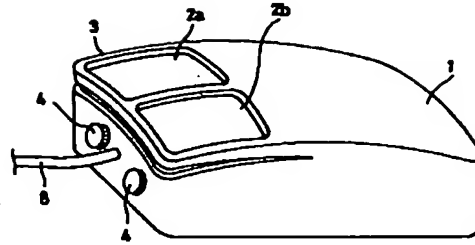
【図5】



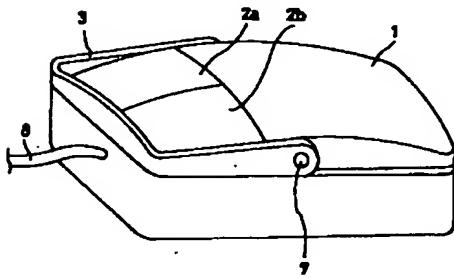
【図1】



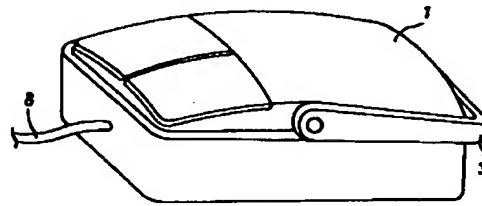
【図2】



【図6】



【図7】



【図8】

